

降旗隆二先生が第117回日本精神神経学会 学術総会にて優秀発表賞を受賞！

◆ 演題

睡眠薬処方の実態と多剤処方の関連要因：統合失調症とうつ病患者の処方データの分析

◆ 概要

目的：統合失調症およびうつ病の治療における睡眠薬処方の実態を調査すること、睡眠薬多剤処方の関連要因について調査すること。

方法：EGUIDE (Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment)研究に参加した全国の84施設研究について、2016年～2018年の統合失調症 (n=2146)、うつ病 (n=1031) の退院時処方データを解析した。多変量ロジスティック回帰分析を用いて関連要因の解析を行った。

結果：睡眠薬処方が1剤以上、2剤以上の割合は、統合失調症では55.7%、17.6%であり、うつ病では63.6%、22.6%であった。両疾患において40～59歳で睡眠薬処方率が高かった。統合失調症では、抗精神病薬2剤以上、気分安定薬/抗てんかん薬ありが睡眠薬2剤以上と正の関連を示した。うつ病では、抗うつ薬2剤以上、抗精神病薬あり、抗不安薬ありが睡眠薬2剤以上と正の関連を示した。

結論：統合失調症とうつ病のいずれにおいても、主たる治療薬剤の多剤処方が睡眠薬の多剤処方と関連することが明らかになった。



受賞演題のラストオーサーである橋本部長と